

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

H21 年度からの整備計画における支援学校建設の一つの区切りとなる新たな知的障がい支援学校であることから、これまで大阪の支援教育で積み上げられてきたものを大切にしながら、新たなニーズに対応する支援教育を発信できる学校「未来志向型支援学校」をめざす。

- 1 「一人ひとりを大切にし、将来に向けたステップを作る学校」
- 2 「自ら前向きに変わっていきこうとする力を持つ学校」
- 3 「関係機関と連携し、地域に根付く学校」

## 2 中期的目標

- 1 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と様々な連携による児童・生徒の支援
  - (1) 教育実践マトリクスや自立活動チェックリストを活用し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成。教員、保護者、関係機関等の共通理解を図る。
  - (2) 魅力的でわかる授業づくりのため、シラバス・指導案・授業記録等をデータとして蓄積し、常に授業改善に取り組む。
  - (3) 新しい学校の利点を生かし、様々な様式の統一化を図り、学校全体としてデータの蓄積や分析、引継ぎを効率化していく。
- 2 キャリア教育の充実
  - (1) 卒業後を見通し、小・中・高等部を同じ物差しで見られる新たなスケールの作成と一貫性のあるキャリア教育の構築をめざす。  
※キャリア教育のシラバスを整備し、キャリアプランニングマトリクスを毎年練り直し、西浦支援マトリクスを発信。
  - (2) 地域のリソースを有効に活用することで作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。
  - (3) 放課後の活動や校外活動の充実を通じて、自分に自信を持ち、のびのびと意思を表現できる児童生徒の育成をめざす。
  - (4) 平成 27 年度学校経営推進費事業において、水耕栽培システムを導入し、新しい職業教育の授業を創造、展開していく。
- 3 安全安心な学校づくり
  - (1) 準備した防災マニュアル等を実態に合わせて毎年改善し、校内体制や校内環境を整備する。
  - (2) 地域との連携で、互いに声をかけ合えるような防犯・防災体制の構築をめざす。
    - ア 近隣の商業施設などと非常時の連携を検討する。
    - イ 最寄駅や近隣の福祉施設などと、環境美化のコラボレーションや児童生徒との積極的な交流を推進する。
    - ウ 学校への興味関心を持ってもらうことで、支援ボランティアなど学校へのサポーターを増やす。
- 4 専門性の向上及び人材育成
  - (1) 障がいに応じた指導法のみならず、人権教育や I C T 活用、最新福祉事情等の研修を計画的に行い、支援学校教員としての専門性の向上をめざす。
  - (2) 経験の少ない教員の教員力向上のため、メンター制など効果的な校内支援制度を構築するとともに新たな校務分掌の在り方で有効かつ効率的な組織運営をめざす。
  - (3) 公開授業や研究授業を積極的に活用するとともに地域支援学校間での相互研修システムの構築をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者、教職員を対象に実施 今年度初めて実施し保護者からの回収率は 71%、教員は 100%であった。</p> <p>【教育活動に関する事】</p> <p>・「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる。」という設問では保護者は肯定的な意見が多いものの教職員は分からないという意見が多い。新しく特色として打ち出したものの、初年度の学校運営ということで教職員の中での理解が十分ではない現状が現れている。</p> <p>【学校経営に関するもの】</p> <p>・個別の指導計画や個別の教育支援計画に関する項目は保護者、教職員ともに肯定的な意見が 80%を越えている。丁寧な説明を心がけた結果が現れている。</p> <p>・「学校のHPをよく見る。」という設問では保護者の否定的な意見が多く 73%を越えている。これは学校HPの整備が遅れた結果であると考えられる。来年度は保護者を含め、外部に向けて積極的に発信できるようにすることが課題である。</p> <p>【その他お聞きしたいこと】</p> <p>・西浦支援学校の特色として打ち出した「マトリクスを活用し教員、保護者、関係機関等と児童生徒に関しての共通理解ができている。」という設問では保護者、教職員ともに否定的な意見や分からないという回答が多く、新しい取り組みとしてまだ定着しておらず、今後、保護者、教職員ともに丁寧に説明し情報を発信していく事が課題である。</p> <p>【分析】</p> <p>保護者だけではなく教員にも、学校の情報や現状をどのように伝えていくかが大きな課題である。</p>	<p>第 1 回 (6/5)</p> <p>○H27 年度の本校の取り組みについて</p> <p>・『教育実践マトリクス』を活用して、児童生徒の実態把握と今後の教育的課題について保護者と教員が共通認識を持って意思疎通ができるようになることは非常に意義のあることなので、保護者に『教育実践マトリクス』を配布するなどしてもらいたい。</p> <p>○教員の育成について</p> <p>・経験の少ない教員が増えていることはどの学校でも課題であるが、本校のメンター制を活用することで、経験豊富な教員による指導や助言を進めていってもらいたい。</p> <p>第 2 回 (10/9)</p> <p>○『平成 27 年度 学校教育自己診断』について</p> <p>・『教育実践マトリクス』とは、どのようなものか。注釈を加えた上で簡易版をつけるなどして保護者に分かりやすいようにしてもらいたい。</p> <p>・『キャリア教育』という言葉の意味を保護者に分かりやすく説明をする必要があるのではないか。</p> <p>第 3 回 (2/15)</p> <p>○『平成 27 年度 学校教育自己診断』結果について</p> <p>・学校での細かな授業の内容や取り組みに関する説明や、学校運営、学校の施設・設備に関することなどを、ホームページを活用するなどして外部へ発信していきように改善を進めてもらいたい。</p> <p>・放課後等デイサービスを利用する児童生徒が増加している状況の中、通学バスの送迎時に同じバス停の保護者が集まって話をしたりして情報交換をすることなどが無くなってしまっている。進路に関する情報など、学校から十分に発信してってもらいたい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と様々な連携による児童・生徒の支援	(1) マトリクスを活用し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成。教員、保護者、関係機関等の共通理解を図る。 (2) 魅力的でわかる授業づくりのため、シラバス・指導案・授業記録等をデータとして蓄積し、常に授業改善に取り組む。 (3) 様々な様式の統一化を図り、学校全体としてデータの蓄積や分析、引継ぎを効率化	(1) ・マトリクスを活用して「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、それに基づく個別の支援を十分に反映した授業を展開する。 (2) ア・データ（情報）の収集方法や活用を含めた管理規定を検討し、策定する。 イ・校内での情報公開を通じた授業改善のための研修会を開催し、魅力的な授業を創造する。 (3) ・様式を統一化し、データの蓄積や分析、引継ぎを効率化	(1) ・学校教育自己診断における「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に関する評価で肯定率 80%以上 (2) ア・情報管理規定とデータ収集を今年度中にルール化する。 イ・授業改善のための研修会を年3回以上開催 (3) ・年度末までに統一した様式を学校HPに掲載	(1) 全教員がマトリクスを入力・活用を経験できた。学校教育自己診断における保護者の「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に関する評価で肯定率 90% (◎) (2) ア・指導略案、シラバス、授業記録等のデータはルール化して収集。情報管理規定は策定中。(△) イ・「てんかんに関する対応」「合理的配慮について」「授業における ICT 機器の活用について」等、年4回開催 (○) (3) 指導略案、シラバス、個別の指導計画、個別の教育支援計画などの様式を統一し、HPに掲載。(○)
2 キャリア教育の充実	(1) 新たなスケールの作成と一貫性のあるキャリア教育の構築をめざす。 (2) 作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。 (3) 放課後の活動や校外活動の充実を通じて、自分に自信を持ち、のびのびと意思を表現できる児童生徒の育成。	(1) ・骨太のマトリクスを作成し西浦マトリクスとして発信する (2) ア・喫茶接客設備を使用したカリキュラムを構築 イ・近隣の関係施設や商業・福祉施設等と協働した事業を計画立案していく ウ・学校経営推進費による水耕栽培事業により、職業の時間に新たな層の生徒にとって効果的な授業を構築する (3) ・児童生徒及び保護者のニーズを的確に捉え放課後の部活動や校外活動を充実させていく。	(1) ・今年末までに西浦マトリクスを完成し発信 (2) ア・高等部職業コースの3学年で施設を利用した授業に取り組む イ・2つ以上の事業を実施 ウ・今年度中に稼働し、水耕栽培を活用した授業の生徒満足アンケートを実施 (3) ・学校教育自己診断におけるキャリア教育に関する評価で肯定率 70%以上	(1) 学校HPにマトリクスプロフィールシートを掲載。今年度中に改訂版を完成させた。今後さらなる改訂にむけて運用と分析を行う (◎) (2) ア・喫茶室を活用した実習を2学期より開始。西浦フェスティバルには模擬実習を実施 (◎) イ・2つの事業を実施した (○) (3. (2)のイと同じ) ウ・設置が3学期となり授業活用が遅れたが (△)、職業コースで農業分野の授業を展開し、水耕栽培につなげる形は作った (○) (3) 開校年度として、校外活動には積極的に出る事ができたが、放課後活動が遅れた。学校教育自己診断におけるキャリア教育に関する評価で肯定率は39% (△) 保護者への周知活動を充実させていく
3 安全安心な学校づくり	(1) 準備した防災マニュアル等を実態に合わせて毎年改善し、校内体制や校内環境を整備する。 (2) 地域との連携で、互いに声をかけ合えるような防犯・防災体制の構築をめざす。	(1) ・年度内にマニュアルの見直しをし、避難訓練の検証を通して校内体制を整備する。 ・校内環境の見直しを随時行い、新校への不適応児童生徒の減少を図る。 (2) ア・近隣の商業施設などと非常時の連携を検討。 イ・最寄駅や近隣の福祉施設などと、環境美化のコラボレーションや児童生徒との積極的な交流を推進。 ウ・学校への興味関心を持ってもらうことで、支援ボランティアなど学校へのサポーターを増やす。	(1) ・学校教育自己診断における防災及び校内環境に関する評価で肯定率 70%以上 (2) ア・4月から検討開始し1学期中に一定のめどを立てる イ・1件以上の協働企画を立案し実行する。 ウ・学校サポーター制度の検討委員会を立ち上げる。	(1) 防災・防犯、調理実習・緊急対応、感染性胃腸炎マニュアルなどは完成。研修や訓練も実施。(○) ただ、周知が足りず保護者の学校自己診断の肯定率は56% (△) (2) ア・連携は進めているが、非常時については検討段階どまりで、実質的な協議は来年度へ持ち越し (△) イ・近隣の福祉事業所と児童生徒作品の展示イベントや西浦フェスティバルでの交流を実施。高齢者施設とも連携開始している (◎) ウ・検討委員会については担当者を決めて、準備作業段階。実質的な立上げは来年度へ持ち越し (△)
4 専門性の向上及び人材育成	(1) 人権研修、ICT活用、最新福祉事情等の研修を計画的に行い、支援学校教員としての専門性の向上をめざす。 (2) メンター制など効果的な校内支援制度を構築するとともに有効かつ効率的な組織運営をめざす。 (3) 公開授業や研究授業を積極的に活用するとともに地域支援学校間での相互研修システムの構築をめざす。	(1) ・人権研修、ICT活用、最新福祉事情等の研修を計画的に行い、支援学校教員としての専門性の向上をめざす。 (2) ア・初任者や他校種からの転勤者を対象に、メンター制度を新たに検討し、校内支援体制を確立する。 イ・従来の校務分掌の枠組みを再構築し、リーダー制による責任ある効率的な組織運営を検証する。 (3) ア・授業参観週間を年3回設けるとともに、教科による研究授業の定例化をめざす。 イ・近隣の支援学校や高校との間で、相互研修できる研究授業の仕組みを検討する。	(1) ・各研修を計画的に実施し学校教育自己診断における教職員の研修における満足度に関する評価の肯定率 80%以上 (2) ア・今年度中に支援体制をスタートさせる。 イ・学校教育自己診断における教職員の校務分掌に対する満足度に関する評価の肯定率 60%以上 (3) ア・教科による研究授業を年2回以上開催。 イ・2学期末までに、検討会をスタートさせる。	(1) ・計画通りに各研修を実施できた。研修における教職員の満足度の肯定率は62% (△) 今後、質を高めていくことが課題。 (2) ア・メンター制度を実施。OJTを中心に各種研修を実施。来年度に向け制度を修正 (◎) イ・教職員の校務分掌に対する満足度に関する学校自己診断の肯定率は49% (△) (3) ア・年3回の授業見学週間は実施。教科による研究授業の代わりに、教員のための公開授業週間を実施。(○) イ・検討会設置までは至っていないが、近隣支援学校より映像資料等を借りて授業研究の研修を行うなど連携は進みつつある (△)